

## 大天守と小天守の再建

熊本城の2つの天守は、17世紀初頭の数十年間に建てられたものです。熊本城は西南戦争直前の1877年、当時、陸軍第6師団の司令部であった反乱軍によって包囲され、原因不明の火事で焼失しています。この反乱軍の攻撃は失敗に終わりました。城は1945年まで陸軍の司令部として使用されていました。

1960年には、肥後国主、加藤清正の没後350周年（1611年没）を記念して、古い写真や図面をもとに天守が復元されました。現存する石垣を保存するため、天守は高さ40mのコンクリート杭により、石垣の上で支えられています。熊本県民は屋根瓦の一枚一枚に寄付をして、再建に貢献しました。1998年には、他の多くの城郭建築物を再建する大規模な工事が開始されました。この取り組みにより、櫓や門の多くは2000年代前半に作られたものとなっています。